YAGINUMA, T.–On the Japanese spiders: Genera *Mangora*, *Neoscona* and *Zilla*

日本産オニグモ類 *Mangora, Neoscona, Zilla* 属について

八 木 沼 健 夫

日本のクモは Koch, Karsch, Dönitz, Bösenberg, Strand 等により研究され，後邦人の手に受けつがれたのであるが，現在用いられている学名はその命名当時と殆ど変りなく，中にはいまだに明治時代のまゝ使用されているものが可成りある様である。従つて現在の分類の観点からすれば検討を要するものが相当あり，又当時誤り同定されたまゝ何等検討されずに使用されて来た学名もあつて，昆虫の分類などに比べて著しく立ちおくれている感がある。勿論一人で全体を見なおすことは恐らく終生かかつても不可能であろうが，日本のクモの分類が一歩でも前進してくれればと思つて最近この仕事に手をつけた。今後少しずつでもまとまつたものからその結果を報告して行き度いと思つている。そこで今回はその一端としてオニグモ類数属をとり上げて見た。

オニグモ類はその属の範囲が学者によりかなり広狭があつて，かつては *Epeira* が極めて広範囲に渉つて用いられたが，後 *Aranea* や *Araneus* がこれにかわり，最近では次才に細分されつつある傾向にある。たとえ細分主義をとらない学者でもいくつかの Group にまとめているようであるし，又 Petrunkevitsch や Kaston などが再び *Epeira* を持ち出し，*Araneus* と *Epeira* に大別したのを始め，今日では Archer の ♂ の触肢の研究による細分属が用いられている。

日本のオニグモも一応は之等と照合し属を正確にする必要があり，細分するにしてもしないにしてもいくつかの Group に分けて考える方が分類の研究の上から便利なのだが，今の所まだその時期でなく，それ以前の仕事さえ残されている現状にかんがみ，一先ず属の範囲を大きくとり，日本の Spider fauna がほぼ明らかになつた時に始めて最後の整理をしたいと考えている。日本でオニグモと称されるものには *Araneus* 以外のものも含み，又他よりオニグモへ移さねばならぬものがあつたりする。

先輩諸氏の業蹟を土台にしてなすこの研究も，次代への一つのふみ石ともならば幸である。研究に当り，助言をいたゞいた江崎悌三，岸田久吉，斎藤三郎，鈴木正将，植村利夫氏を始め，標本・文献に便宜を与えて下さつた大井良次，木村重仁，関口晃一，米田宏，吉倉真氏に深甚の謝意を表する。

I *Mangora* CAMBRIDGE, 1888.

Mangora, SIMON, Hist. Nat. Araig., pp. 785-794, 1895; Dahl, Tierw. Deutsch., p. 23, 1931;

Locket & Millidge, Brit. Spid., p. 165, 1953; Kaston, Spid. Conn., p. 238, 1948; Archer, Amer, Mus. .Nov. No. 1487, 1951 & Ibid No. 1502, 1951.

Mangora herbeoides (BÖSENBERG et STRAND) 1906 ゴマシロオニグモ(Fig. I. 1–8)

Aranea herbeoides, Bös. et Str., Abhand. Senck. Nat. Ges. xxx, pp. 227-228, 1906; S. Komatsu, Icon. Aran. Jap., p. 128, 1936.

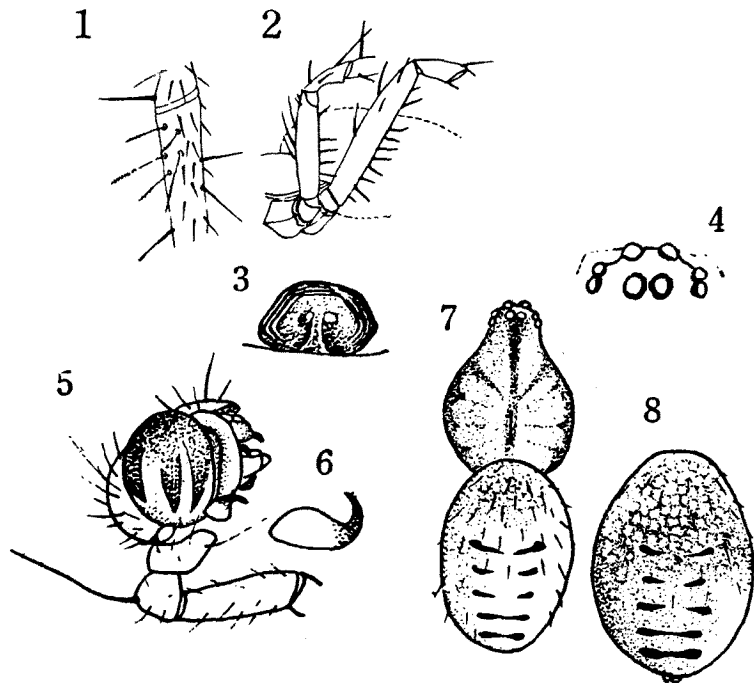



Fig. 1 *Mangora herbeoides*
1. ♂第3脚脛節. 2. ♂第3. 4脚腿節. 3. ♀ epigynum. 4. 眼域, 5. ♂触肢.
6. ♂触肢中部把持器. 7. ♂背面. 8. ♀腹部背面.

Mangora は従来欧米で記録されている属であるが，日本では本属のものは記録されていない。しかしながら従来ゴマシロオニグモ（*Araneus herbeoides*）とされていたものが今の所日本産の唯一の *Mangora* である。筆者は次の *Mangora* の標徴により本種を *Araneus* から *Mangora* に転属することとした。

1. 中窩は巾のせまい縦向きの溝である（*Araneus* は横）2. ♂の触肢の膝節の長剛毛は1本（*Araneus* は2本） 3. オ3脚脛節に羽毛状の聴毛がある。 4. 後列眼は端直で前列眼は後曲。 5. Epigynum に Scape がない。

体長 5–6mm 位の黄緑色の美しい小型のオニグモで腹背に五対の黒斑がある。♂の触肢の Median apophysis は短く尖端上方に曲る。オ3脚の他にオ4脚の脛節にも羽

毛状聴毛がある。特に著しい特徴としては♂の才3・才4脚下面に略直角に多数の長い強い棘が列生する。本種はアルコール浸標本では黄色になるので往々ドヨウオニグモやトホシドヨウグモなどと間違えられることがあるから注意を要する。

分布：本洲・四国・九州

II *Neoscona* SIMON, 1864.

Neoscona, Simon, Hist. Nat. Araig. (Ed.I) p. 261, 1864; *Aranea* Group 8. Tierw. Deut. pp. 103-106, 1931; *Araneus* Group VII, Locket & Millidge, Brit. Spid. p. 141, 1953; *Neoscona*, Archer, Amr. Mus. Nov., No. 1487, p. 22, 1951.

本属は Simon が *N. arabesca* (WALCK.) を模式種として設定した属であるが，之等は属を広くとる学者により *Araneus* として扱われて来た。しかし最近では *Araneus* から分離する傾向にあり，更に之を細分したり，又その Subgenus まで考えられているが，筆者は今の所之等を一括して *Neoscona* としてまとめる。日本産のもので本属として扱わるべきものが多数あり，多くの種を検した結果明らかにに *Neoscona* にすべきものを次にかかげる。

Neoscona の標徴としては，1，♀♂共に中窩が縦向きである。2，側眼が隆起上にない。3，epigynum に Scape がある（多くはスプーン状）4，腹部の肩に humps がない。

Neoscona nautica (L.KOCH) 1875 イエオニグモ (Pl. I. 5, 15)

Aranea nautica, Bös. et Str., Abhand. Senck. Nat. Ges. XXX. p. 222. 1906; *A. koratsensis*, Dön. et Str., Ibid. p. 384, 1906, *Neoscona nautica*, Petrunkevitsch, Trans Conn. Acad. Art. Sci. Vol. 30, pp. 320-322, 1930.

本種は久しく *Araneus nauticus* として扱われて来たが，前記の標徴から *Neoscona* として扱わるべき種である。世界にひろく見出され，海外ではすでに *Neoscona nautica* として用いている場合が多い。Bös. 及び Str. の Japanische Spinnen, p. 222, 1906 には *Aranea theisi* とあつて，巻末 p. 403 に *Aranea nautica* に訂正する旨が書かれている為，従来この正誤表を見落し本種を *Aranea theisi* とした例があるから注意を要する。*A. theisi* は南の系統のものであり北にはいない。斎藤氏の私信によれば「東北地方のクモ」中の *A. theisi* も *A. nautica* の誤との由。

なお Bös. 及びStr. の *Aranea koratsensis* は本種の Synonym である。

分布：本州・四国・九州・琉球・奄美大島・（台湾）

Neoscona theisi (WALCK.) 1841 ホシスジオニグモ (Pl. I. 3)

Araneus theisi, Nakatudi, Acta Arachnol., vol. 7, No. 2, p. 79, 1942.; Thorell, Kongl. sv. vet. Akad. Hand. xxiv, p. 52, 1845-1847; Thorell, Spid. Burma, p. 178, 1895.

次の2種に近似した種である。[黄色の腹背に褐色の斑紋がある小型のオニグモ。*N. adianta* は北方系，*N. dönitzi* は温帯性，*N. theisi* は南方系である。従来の各地の目録中 *A. theisi* を発見するが，中には *N. nautica* の場合があつたようである。

分布：九州・青島・奄美大島・(南洋)

Neoscona adianta (WALCK.) 1802 ヒメオニグモ (Pl. I. 2)

Araneus adiantus, Saito, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., Vol. 13, p. 337, 1934; Saito, Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imper., Univ., Vol. 33, p. 331; Saito, Rep. Ist. Sci. Exped. Man. Sect. V,div. 1, par. III, Art.ll p. 40, 1936; Saito, Annot. Zool. Jap. Vol. 13, p. 381, 1932.
Aranea adianta, Thorell, Rem. Syn. Europ Spid., p. 23, 1873.
Epeira adianta, L. Koch. Arach. Sibir. Nov. Selm. p. 7, 1879.

北方系のクモで次の *N. dönitzi* とよく似ているが，稍大きく，腹部長く，腹背の黒斑は著しくこい。

分布：北海道・(樺太・満洲)

Neoscona doenitzi (Bös. et. Str.) 1906 ドヨウオニグモ(ドヨウグモ改称) (Pl. I, 1, 18)

Meta doenitzi, Bös. & Str., Abhand. Senck. Nat. Ges. xxx, p. 180, 1906; *Araneus dönitzi*, T. Yaginuma, Atypus. No. 6, p. 23, 1954.

本種は久しく *Meta dönitzi* (ドヨウグモ) として親しまれて来たが，筆者が Atypus No. 6 で述べた通り，Meta は明らかな誤りで，*Neoscona* として扱わるべきものである。細分式では *Neosconopsis* に属する。♂の触肢を検してもその Median apophysis の形は *N. adiantus* に似て居る。しかし腹部の斑紋，頭胸部の形や色彩，epigynum の形から両者は明らかに別種である。

分布：本州・四国・九州・(朝鮮)

Neoscona scylla (KARSCH) 1879 ヤマシロオニグモ (Pl. I, 9, 16)

Aranea scylla, Bös, & Str. abhand. Senk. Ncat. Ges. xxx, p. 215, 1906.

本種も *Neoscona* として取扱わるべき種で，海外では既に日本の本種を *Neoscona* として扱つている学者もある。前三者とは多少趣を異にし，次の *N. scylloides*, *N. mellotteei* などと一つの小グループをなすものである。Epigynum の Scape の形は前三者より長く先端は内方に曲つている。色彩の変異極めて多く，白斑型 (腹部前方に白斑あり) 黒斑型 (腹部の色彩退色し後端に黒斑がある *N. scylla var. nigromaculata*) 等往々見うける。

分布：広範囲で北海道・本州・四国・九州・トカラ・屋久島・種子島・奄美大島・(韓国)

Neoscona scylloides (Bös. et STR.) 1906 サツマノミダマシ (Pl. I. 10, 13)

Aranea scylloides, Bös. & Str., abhand. Senck. Nat. Ges. xxx p.217, 1906
Araneus scylloides, Yaginuma.Acta, Arachnol. Vol. 5, No. 2, p. 123, 1940.

外観は緑色で前者と全くちがうが Epigynum の形がよく似ている点からつけられた学名である。次の *Mellotteei* としばしば混同され，筆者はかつて Acta Arachnologica Vol. 5, No. 2 p. 123 にその区別を明記したが，印刷にミスがあつた為徹底を欠いたようである。腹部背面のみならず下面両側まで緑色で背面と下面の間に黄色の線がある。

分布：本州・四国・九州・トカラ・奄美大島・(台湾)

Neoscona mellotteei (SIMON) 1895 ワキグロサツマノミダマシ (Pl. I. 11)

Araneus mellotteei, Simon, Hist. Nat. Araig. p. 814, 1895; *Aranea mellotteei*, Bös. & Str., Abhand. Senck. Nat. Ges. xxx. p. 218, 1906; *Araneus mellotteei*, Yaginuma, Acta Arachnol. Vol. 5, No. 2, p. 123, 1940.

液浸標本では黄色に変化する所からキバラオニグモなる名もあるが，生時は殆ど緑色である。前者との相異は Acta Arachnol. に詳しく述べてある。見解の相違として，往々この二者を同一種視する人もあるようだが，此の二者は別種とする明瞭な区別点を有しているから混同しないよう注意を要する。腹部背面は緑色であるが下面両側は褐色でありその境界は明瞭である。(Acta Arachnol. にヘリグロサツマノミダマシとあるは誤りである)

分布：本州・四国・九州・(朝鮮・台湾)

Neoscona rumpfi (THORELL) 1878 アカアシオニグモ（新称） (Pl. I. 7)

Araneus rumpfi, Thorell, Ann. Mus. Gen. xiii, p. 296, 1878; Pocock, Fauna Brit. Ind., p. 228, 1900.

一見ヤマシロオニグモに近似しているが，オ1, 2脚の腿節は赤色，頭部も赤味を帯びている。腹背に黄褐色の斑紋がある。歩脚に輪紋あり，Epigynum の Scape はヤマシロオニグモと違い基部に近い所から直角に曲る。腹部下面の斑紋はヤマシロオニグモでは丸い黄白色の2斑点があるに反し，長三角形の2斑点がある。

分布：奄美大島・(台湾)

Neoscona opima (L.KOCH) 1877 コゲチヤオニグモ (Pl. I. 8, 12)

Aranea opima, Bös. & Str., Abhand. Senck. Nat. Ges. xxx, p. 231, 1906
Epeira opima, L. Koch, Verhand. d. K. K. 200-bot. Ges. Bd. 27. p. 739, 1878.
Aranea punctigera var. *vatia*, Bös. & Str., Abhand. Senck. Nat. Ges. xxx, p. 230, 1906.

中型のオニグモで黒色から淡褐色まで，又有斑，無斑等色彩変異極めて多く，腹部背面に4－5対の斜状斑あるものもないもの等があつて，従来無斑型に対してはコゲチヤオニグモ，有斑形のものに対してトスジオニグモ *A. punctigera* var. *vatia* が用いられて来た。Bös. 及び Str. の図からも両者は別種の感があるが，両者間に明瞭な線を引くことは困難であり，♂の触肢の構造は何れをとつても同じである。Bös. Str. の *A. opima* の Epigynum の図と *A. punctigera vatia* の epigynum の図は全く異つてみえるが，*opima* の scape を引き起すと *punctigera vatia* の如くになる。腹の膨脹状態で両者のちがいが表れるが，epigynum そのものに何等のちがいが見られない。Bös. Str. の取扱つた二つのものは同じ種であり，今の所二種に分つ種は見出されない。

分布：本州・四国・九州

Neoscona fuscocolorata (BÖS. et STR.) 1906 ヤミイロオニグモ (Pl. I. 6, 14)

Aranea fuscocolorata, Bös. & Str., abhand. Senck. Nat. Ges. xxx. p. 224, 1906.

小型のオニグモで体色は常に黒褐色，腹部に明瞭な葉状斑なし，従来次の *N. subpullata* の黒褐色型が誤つて本種に同定せられたことがあるようだが，本種の epigynum

の scape は長<巾で，腹部は巾>長，epigynum と蛛疣との間に大きい黄色斑がある。中眼域は長≒巾，後中眼間は眼直径より広いか等しい。♂の触肢の Med. apoph. から細分では *Neoscona* より分離すべきであろうが，筆者の見解に於て本種を *Neoscona* におく。

分布：本州・四国・九州

Neoscona suppullata (Bös. et Str.) 1906 ヘリジロオニグモ (Pl. I. 4)

***Aranea subpullata*, Bös. & Str., Abhand. Senck. Nat. Ges. xxx, p. 234, 1906.**

斑紋の変化頗る多く，黒褐色型から白色型まであり，腹部中央下方両側に黒斑ありその外側に白い斑紋があるのが普通である。腹部は長>巾で Epigynum の Scape は前者より長く，長>巾である。中眼域は長>巾，後中眼間は眼直径より小さい。山地でも見られるが殊に海岸に多く，トベラやウバメガシの樹間に小さい円網を張る。完全円網のものや，Zygiella type に似たものを張る。

分布：本州・四国・九州・トカラ・奄美大島

III ***Zilla*** C. L. Koch 1834 と ***Zygiella*** F. O. Cambridge 1902

Zygiella なる属が表われてから，最近では従来の *Zilla* が殆ど *Zygiella* に転じ，*Zilla* は別な sense で用いられる傾向にあるので，ここに両者の特徴を明らかにし，我国のクモを検討してみよう。Zilla type などとして親しまれた属名ではあるが，旧来のまま使用していると新しい *Zilla* と混同のおそれがあるので両者の区別を明確にしておく必要がある。

Zilla は C. L. Koch (1834) が *Z. x-notata* (Clerck) を模式種として設定したものであり，*Z. atrica, Z. montana* など何れも *Zilla* として扱われたが，Simon (1895) は *Zilla* を *Aranea* に併合した。後 F. O. Cambridge (1902) が *Zilla atrica* (C. Koch) を模式種として *Zygiella* 属を設け，従来の *atrica, montana* 等を之に隷せしめたが，Petrunkevitsch (1928) は *Zygiella* を *Zilla* の Synonym として扱つた。所が Simon (1929) は再び *Araneus diodia* から *Zilla* を認め之を *Zilla diodia* とした。爾来 *Zilla* と *Zygiella* の取扱いは人により異つた見解が生じたが最近では従来の *Zilla* は殆ど，*Zygiella* とし *Zilla* は新しい意味で再び採用されるようになつた。(その結果従来の Zilla type なる名も Zygiella type とおきかえられている)

筆者の使用する両属は次の見解に立つものである。

Zilla と *Zygiella* の比較

両者は両列眼が共に後曲 (⌒)，中眼域が略方形である点は共通であるが次の差異を有している。

Zilla 前中眼間は前中側眼間よりはるかにせまい。Epigynum に scape がある。♂の触肢の膝節に一本の長剛毛あり，脛節にはない。♂の才1脚基節に爪状突起がある。

完全円網を張る。

Zygiella 前中眼間及前中側眼間はほゞ等しい。Epigynum に Scape がない。♂の触肢に一本，脛節に一本の長剛毛あり（脛節にない時は脛節は非常に長い)。♂の才1脚の基節に爪状突起がない。一部横糸の欠けた所謂 Zilla (Zygiella) type の網をはる。

以上の特徴から日本の *Zilla* 及び *Zygiella* を考察すると，樺太から記録されているものはすべて *Zygiella* である。(*Z. atrica, Z. montana, Z. litterata* 等)

内地産の *Zygiella* は今の所明らかでなく，Bös. 及び Str. が記している *Zilla dispar* は産地不明であり，*Zilla sia* は記載面からは属の決定不可能である。(*Zilla sia* 或いは *Araneus akitaensis* と同定されて来たものは明らかに *Zilla* でも *Zygiella* でもない)

しかしながら新しい sense の *Zilla* としては次の三種及び一新種が見出される。

Zilla sachalinensis (SAITO) 1934 カラフトオニグモ (Pl. II. 8-1)

Argiope Sachalinensis, Saito, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. Vol. xiii, p. 232, 1934; ***Araneus sachalinensis***, Yoshikura, 樺太　蜘蛛類黄金蜘蛛科生態と分類 p. 75, 1939. ***Araneus saganus***, Tikuni, 日本アルプス山系の蜘蛛 p. 99. 1941.

本種は樺太産の一頭の標本により *Argiope* の新種として発表されたものであるが，歩脚や眼の状態から吉倉氏も *Argiope* でないとし，又斎藤氏自身も属名については再考を要する旨述べている如く *Argiope* でないことは明らかである。後吉倉氏は樺太で本種を多数得て居り，その後筆者は本州，四国，北海道からも多数の個体を得て居り，特に昭和29年7月北海道でとつた♀♂(阿寒湖畔，登別)を検した所本種は *Zilla* に属せしむべきことを確認した。色彩の変異は極めて多く，斎藤氏の図の如きもの，吉倉氏の図の如きもの，又 *Araneus tokachianus* の図に似たもの等種々あり，北海道から内地一帯に分布しているこのクモは特異な形，色彩から容易に他種と区別が出来，之等すべては斎藤氏の記載したものに同定すべきものである。頭部中央稍高く，腹部前方には hump がないがやゝ肩が張つている。Epigynum の Scape は短いが，常に存在する。腹部下面の黒斑両側の黄白色部が真白にのびた所で蛛疣の前方に斑点を有するのみで蛛疣前方には斑紋はない。完全円網を張る（本項記述に使用した材料は斎藤氏の同定を経たものである）

分布：本州・四国・北海道・(樺太)

Zilla tokachianus (SAITO) 1934 トカチオニグモ

Araneus tokachianus, Saito, Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. xxxiii, pt. v., p. 326.1934

筆者は未だ本種を採集していないが斎藤氏の記述面からも，又 *Zilla sachalinensis* (SAITO) に酷似せる点からも Zilla に属すべきものであることは明らかである。本種の原記は *Z. sachalinensis* に合う点が多いが，斎藤氏によれば次の明らかな区別点を有するとの由。

A. tokachianus	*A. sachinensis*
1. 腹部肩部の隆起が強い。	1. 腹部が円く肩隆起は弱い。
2. 腹部が両側略平行する感がある。	2. 腹部が長楕円形である。
3. 葉状斑が明瞭で整つている。	3. 葉状斑が整つていない。
4. 生殖器が複雑である。	4. 生殖器が単純な形をなす。
5. 現在北海道からのみ産する。	5. 北海道以外にも本州にも居る。

（従来本州産で本種と同定されたものは恐らく *Z. sachalinensis* の方であろう）

Zilla sagana (Bös. et Str.) 1906 サガオニグモ (Pl. II. 1–7)

Aranea sagana, Bos. & Str., Abhand. Senck. Nat. Ges. xxx, p. 233. 1906

幼生から成長に従つて体色形態変化し，又個体による色彩の変異の多いクモであり，腹背の斑紋は前者と同様の傾向を示す。Epigynum の Scape は極めて長く蛛疣近くに達するのであるが，成熟したものでは之のとれているものが多い。Bös. Str. の図は Scape のとれた Epigynum で，この為本種に同定し兼ねる場合もあつたようである。♂の palpus の膝節の長剛毛は一本で，且つ中眼域が方形である点から *Araneus* からは分離すべきである。

頭部は扁平で毛多く，腹部前部両側に前向きの humps があり，Scape は性域と蛛疣間の半ばより長い。腹部下面黒斑の両側の黄白色部の下端及び蛛疣斜前方に斑紋あり，又蛛疣の前にもかすかな斑紋がある。

分布：本州・四国・九州

Zilla flavomaculata sp. nov. キマダラオニグモ（新称）(Pl. II, 13–20)

産地及模式標本　三重県大人平山 Aug., 2, 1951 ♀ad. (Holotype) 八木沼健夫採，
大阪府豊能郡箕面村 June, 5, 1946 ♀ad. (Paratype) 八木沼健夫採，兵庫県氷上郡 Aug., 1954 ♀ad. (Paratype) 吉見一郎氏採

測定（単位 mm）：体長 6.7，オ1脚 10.4，オ2脚 9.4，オ3脚 5.1，オ4脚 8.2，オ1脚 蹠＋跗 3.6，同脛＋膝 3.8，腹長 4.9，同巾 3.1

形態及色彩（Holo. ♀）頭胸部は長さ巾に等しくオ2.3脚間最広。頸溝は明瞭であるが浅く，放射溝は不明瞭。頭部暗褐色，胸部は黄褐色で黒色で縁どられる。中窩は横向き額はきわめて狭く殆ど前中眼は前縁に接する。眼は頭部前幅を占める。上顎の基部ふくらみ，外顆は明瞭，全体黒褐色であるが，牙は赤褐色，後牙堤に3歯あり。下顎は長さ巾に略等しく方形，黒色で前内縁は白色。内縁平行し，毛総あり。触肢の膝節の末端及びそれより先は黒褐色，腿節，膝節の大部分は黄褐色。下唇は三角形で巾>長，基部黒色で前縁は白色。

眼は隆起上になく二列共後曲（︵）であるが前列の後曲度が強い。後中眼最大，中眼域は略正方形で長さわずかに前辺より長い。前中眼間は前中眼の直径より大きく，後中眼間は後中眼の直径より小さく隔たる。両側眼は中眼よりはるかにはなれて位置

し，両側眼は互に接する。胸板は黒色で斑紋なく長さ>巾，前端切截状（稍前曲）後端は尖つているが才4脚基節間に挿入せず。歩脚1・2・4・3，基節は黄色で他の節は黒褐色で先端に到るに従い明るくなる，特に才4脚跗節は明るい。腹部は両端のにぶいだえん形で長さ巾にまさり背面稍扁平。肩に突起はないが稍張り気味，黒色の地に中央に2列，両側に各1列の大きく美しい黄色斑あり。（中央に 2.2.2.2.1.1，側方に各1.1.1），腹面の中央は黒色で前方から側方にかけて鱗状の白条でかこまれる。蛛疣前側方に1対の白斑がある。Epigynum は赤褐色，Sacpe の巾広く先端急にほそる。

備考 1. 本種は *Zilla sachalinensis* (SAITO) や *Zilla diodia* (WALCK.) に形，大きさが似て居るが，腹部背面の斑点や Epigynum の Scape の形等により明らかに区別出来る。

2. Paratype 中には全体淡色のもの，歩脚の輪紋明瞭なるものがある。又腹背の黄斑の数形のちがつたものもある。

3. 本種は山間の樹間に垂直完全円網を作る。（網性は *Z. sachalinensis* に似ている）

模式標本保管場所：Holotype 大阪市立自然科学博物館 Paratype 東亜蜘蛛学会

Zilla flavomaculata sp. nov.

Japanese name: Kimadara Onigumo

(Pl. II. 13–20)

Locality and Date:

Holotype, Aug., 2, 1951, ♀ adult   Miye Prefecture

Paratype, Jun., 5, 1946, ♀ adult   Osaka Prefecture

Measurements (mm):

Total length 6.7, Leg I 10.4. II 9.4, III 5.1, IV 8.2

Description:

Head blackish brown, thorax dull yellow with black margin. Carapace as long as wide, and widest between 2nd and 3rd legs. Median furrow transverse, cervial grooves distinct but radials indistinct. Clypeus practically invisible. Both rows of eyes recurved. Anterior curve more pronounced than posterior. Posterior median eyes larger and the rest of equal size. Anterior median eyes closer to each other than to the adjacent laterals. Lateral eyes contiguous. Eye quadrangle almost square. Chelicera with boss. Endites as long as wide, inner edges parallel with scopula. Labium broader than high. Endites and labium deep brown with white margin. Sternum black, longer than wide, truncated in front (rather slightly procurved) and pointed behind,

but not extend into IV coxae. Legs brown, 1243. Abdomen long oval without humps. Many large yellow spots on the black dorsum. Venter black, middle field bordered by a stripe of scaly white spots.

Remarks :

The present species resembles Japanese *Zilla sachalinensis* (SAITO) or European *Zilla diodia* (WALCK.), but it is easy enough to distinguish from these by the markings on the abdomen and the shape of the epigynum.

This species makes a circular web among the bushes in the hills.

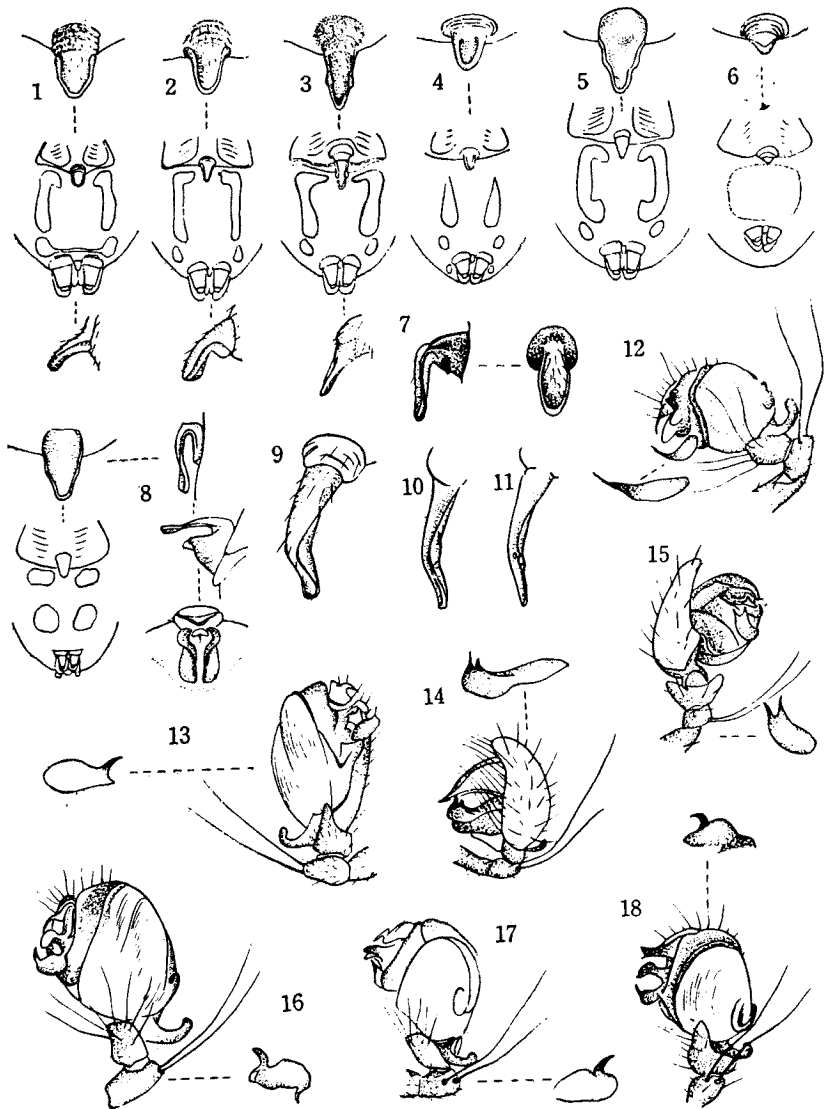
Male is still undiscovered.

圖版說明

Pl. I.

1. *Neoscona doenitzi* (BÖS. et STR.) 上から epigynum, 腹部下面, epigynum 側面
2. *N. adianta* (WALCK.), 同
3. *N. theisi* (WALCK.) 同
4. *N. subpullata* (BÖS. et STR.) 上 epigynum, 下腹部下面
5. *N. nautica* (L. KOCH),
6. *N. fuscocolorata* (BÖS. et STR.) 同
7. *N. rumpfi* (THORELL), 左 epigynum 側面, 右 epigynum 前面
8. *N. opima* (BÖS. et STR.), 左上 epigynum 前面, 左下 腹部下面, 右上 epigynum 側面, 右中 epigynum 側面 Scape を引き起した所. 右下 同左正面
9. *N. scylla* (KARSCH), epigynum
10. *N. scylloides* (BÖS. et STR.), epigynum
11. *N. mellotteei* (SIMON), epigynum
12. *N. opima* (BÖS. et STR), ♂ 触肢及中部把持器
13. *N. scylloides* (BÖS. et STR.), 同
14. *N. fuscocolorata* (BÖS. et STR.) 同
15. *N. nautica* (L. KOCH,) 同
16. *N. scylla* (KERSCH), 同
17. *N. mellotteei* (SIMON), 同
18. *N. doenitzi* (BÖS. et STR.) 同

Pl. II.

1. *Zilla sagana* (BÖS. et STR.), 背面
2. 同腹部側面
3. 同眼域
4. 同 Scape のとれた epigynum
5. 6. 同 epigynum の scape
7. 同腹部下面
8. *Zilla sachalinensis* (SAITO) 腹部背面
9. 同腹部下面
10. 同 ♂ 触肢
11. 同 ♂ 背面
12. 同 ♂ 第 1 脚基節爪状突起
13. *Zilla flavomaculata* sp. nov. (Holptype), 背面
14. 同 (Paratype) 背面
15. 同 (Holotype) 眼域
16. 同背面
17. 同腹部下面
18. 同側面
19. 同 epigynum 前面
20. 同 epigynum 側面

T., Yaginuma del.

T. Yaginuma del.